

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101554
法人名	株式会社SOYOKAZE
事業所名	甲府ケアセンターそよ風
所在地	山梨県甲府市富竹3丁目3-5
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 15 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和6年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人一人の思いを大切にその思いに寄り添い、形式に捉われることなく個々のペースを尊重し、安全かつ穏やかに過ごしていただけるような対応を職員一同心掛けています。また、ご家族様の意向・介護負担を考え、必要な方には内科・皮膚科・精神科等の受診対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると正面に生花が生けられており、ゆったりとした音楽が流れています。棚には運営推進会議録等のファイルが置かれ、誰もが見れる状態になっています。「ふじさくら」「なでしこ」の2ユニットが事務所を囲んで位置しており、利用者同士の関係性や相性によって柔軟に移動することができ、利用者が気持ち良く穏やかに過ごせ、安心した生活ができる環境の提供に努めています。「絶対に身体拘束は行わない」という強い信念を持ち、「身体拘束NGプロジェクト」を設置し、やらない対策を検討して、ホーム一丸となって取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) <b>(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)</b>	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( なでしこ )	ユニット名( ふじざくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り実施している。	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り実施している。	理念「その人らしく、和やかな環境でゆったりと自由な時間を」を掲げ、「やさしさと思いやりで否定しません。まずは受け入れます」という具体的な行動指針をもって実践しています。理念や行動指針の再確認は月1回のフロア会議で行い、振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	組長会議・河川清掃・夏祭りに参加している。事業所の行事の際には地域より物品を借用するなど交流している。近隣を散歩しながら、地域住民の方と挨拶を交わすなど交流に努めご近所付き合いをしている。	組長会議・河川清掃・夏祭りに参加している。事業所の行事の際には地域より物品を借用するなど交流している。近隣を散歩しながら、地域住民の方と挨拶を交わすなど交流に努めご近所付き合いをしている。	自治会に入会して、そよ風が1組合になっており、毎回、組長会議に管理者が出席し、地域の河川掃除やお祭りなどにも参加しています。事業所で行う行事の時には、いすやテーブルを借りています。近所を散歩することで入居者の顔を覚えてもらい気軽に声をかけてくれるなど、地域の一員として地域住民の方と交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長様と関わりを持ち、組長会議の集まりに出席するようにしている。	自治会長様と関わりを持ち、組長会議の集まりに出席するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、意見・要望など職員間で共有しサービスに反映させている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、意見・要望など職員間で共有しサービスに反映させている。	2か月に1回開催しています。メンバー：地区民生、包括、施設長、ケアマネ、管理者、地権者(ツクイ)訪問看護、本人、家族。話し合った内容は議事録に記載し、職員で共有し、検討事項は職員会議で話し合い運営やケアに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの相談員の受入れ。困難な問題が生じた時など地域包括センターや行政に相談し解決するようにしている。	市役所からの相談員の受入れ。困難な問題が生じた時など地域包括センターや行政に相談し解決するようにしている。	運営推進会議のメンバーで来てもらっているの、会議時に運営状況や介護サービスの取り組み状況を伝えています。また、相談員が来た時にもホームの状況を伝えています。市役所には事故報告書を届けに行ったときに、施設の様子などを話すようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、安全確保の面からやむを得ず行っている。お客様の要望に応じて、職員が付き添い外出している。	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、安全確保の面からやむを得ず行っている。お客様の要望に応じて、職員が付き添い外出している。	道路に面しているのやむを得ず鍵はしていますが、利用者が希望したときには職員が付き添い対応しています。身体拘束委員会を月1回開催しています。NGプロジェクトも設置し、日常でみられる不適切ケアを検証し、やらない対策を考え、利用者を大切にケアサービスの提供に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるようにしている。社内でも身体拘束についての研修をおこない、報告書の提出、注意喚起をおこなっている。	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるようにしている。社内でも身体拘束についての研修をおこない、報告書の提出、注意喚起をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・学習会等に参加し、研修報告書の提出をおこない、より良い介護に繋がれるように努めている。	研修会・学習会等に参加し、研修報告書の提出をおこない、より良い介護に繋がれるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時に、お客様・ご家族様に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入居後も、不明な事や不安な事があれば、その都度対応するようにしている。	ご契約時に、お客様・ご家族様に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入居後も、不明な事や不安な事があれば、その都度対応するようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、意見交換をしやすい雰囲気づくりを心掛け、ご面会時や運営推進会議で出た意見等は職員全体で共有し、運営に反映するようにしている。	日頃から、意見交換をしやすい雰囲気づくりを心掛け、ご面会時や運営推進会議で出た意見等は職員全体で共有し、運営に反映するようにしている。	家族会はあるが現在コロナ禍の影響があり、ストップしています。日頃から関係性を大切にしており、電話や面会に来た時に意見や要望を聴いたり、運営推進会議で意見を伺っています。聴取した意見や要望は職員で共有・検討し、運営やケアに活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回フロアごとの会議を開催している。会議の場で意見交換の時間を作っている。	毎月1回フロアごとの会議を開催している。会議の場で意見交換の時間を作っている。	月1階フロア会議を開催して意見を聴いています。また、管理者が個人面談を行い、意見や要望を聞き取り、働きやすい職場づくりに心がけています。職員の提案で福祉用具を導入したり、備品をコードレスにして安全が図れたという事例をお聞きました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、労働条件を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。必要に応じて、面談をおこない改善点の把握に努めている。	代表者は、労働条件を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。必要に応じて、面談をおこない改善点の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。	法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の行事への参加や他施設見学や合同でのイベント参加をおこなっている。またケアマネージャーは地域のケアマネージャー交流会への参加をしている。法人内では毎月協議会が行われており、事例検討や施設見学をおこなっている。	グループホーム協会の行事への参加や他施設見学や合同でのイベント参加をおこなっている。またケアマネージャーは地域のケアマネージャー交流会への参加をしている。法人内では毎月協議会が行われており、事例検討や施設見学をおこなっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と信頼関係を築けるよう、ご本人様のベースに合わせて、お気持ちに寄り添い、傾聴するように努めている。	ご本人様と信頼関係を築けるよう、ご本人様のベースに合わせて、お気持ちに寄り添い、傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、ご家族と十分な話し合いを行い、不安や不明なことが無いよう努めている。ご意見・ご要望があった際には都度、迅速に対応できるように心掛けている。	サービスを導入する前に、ご家族と十分な話し合いを行い、不安や不明なことが無いよう努めている。ご意見・ご要望があった際には都度、迅速に対応できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で、ご本人様・ご家族様の思いを汲み取り、情報収集のもとアセスメントをおこない、必要とする支援の見極めをおこない、サービスの提供をおこなっている。	インテークの段階で、ご本人様・ご家族様の思いを汲み取り、情報収集のもとアセスメントをおこない、必要とする支援の見極めをおこない、サービスの提供をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできる能力の見極め、強みを引き出し、一緒に家事をおこなったり、家庭的な雰囲気や温もりのある関係づくりが出来るように心がけている。	個々のできる能力の見極め、強みを引き出し、一緒に家事をおこなったり、家庭的な雰囲気や温もりのある関係づくりが出来るように心がけている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご家族様に、生活の様子・健康状態などをお便りで報告している。	月に一度ご家族様に、生活の様子・健康状態などをお便りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策のため制限を設けた上で、これまでの友人や近所の方々にも、気軽に来ていただけるように、自由な環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。馴染みの場所への支援はご家族にも協力をいただいている。	感染対策のため制限を設けた上で、これまでの友人や近所の方々にも、気軽に来ていただけるように、自由な環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。馴染みの場所への支援はご家族にも協力をいただいている。	感染症の為、面会は事前申し込みをもらって、玄関で短時間の面会にしてもらっています。家族の協力を得て、受診時に馴染みの場所に立ち寄り、ドライブや自宅で過ごすなどの支援をしているとのことです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるよう、状況や必要に応じて職員が介入し、楽しく過ごしていただけるように支援している	利用者同士が関わりを持てるよう、状況や必要に応じて職員が介入し、楽しく過ごしていただけるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(退居後)も、必要に応じて、相談・支援に努めている。	サービス終了後(退居後)も、必要に応じて、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望を尊重し、ご家族様から昔の生活状況など情報収集をおこない、可能な限り希望に寄り添えるケアを心掛けている。	ご本人様の希望を尊重し、ご家族様から昔の生活状況など情報収集をおこない、可能な限り希望に寄り添えるケアを心掛けている。	家族から、本人の生活歴やこれまでの生活状況などを聴いて本人理解に努め、日々のケアの中で聞き取った言葉や行動から思いを把握して記録しています。それを活用しフロア会議で話し合い、本人の思いに沿った生活ができるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人情報収集をおこない、今までの生活環境や馴染みの物等の把握に努めている。出来る限りこれまでと同じ生活が送れるように努めている。	一人一人情報収集をおこない、今までの生活環境や馴染みの物等の把握に努めている。出来る限りこれまでと同じ生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれがご自分のペースでのんびりと過ごしていただけるようにしている。	それぞれがご自分のペースでのんびりと過ごしていただけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロアごとの会議を実施。その中で担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画に反映している。	毎月各フロアごとの会議を実施。その中で担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画に反映している。	介護計画作成時には、各フロアごとに本人家族の意向を確認し、ケアマネ、管理者、担当職員でケース会議を行い、原案を作成しています。その上で家族を含めた担当者会議を開催しています。モニタリングは1か月経過後に行い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	多くの気づきをヒヤリハットにあげ、個人記録やフロアごとの申し送りノートを活用し、情報共有・実施に活かしている。	多くの気づきをヒヤリハットにあげ、個人記録やフロアごとの申し送りノートを活用し、情報共有・実施に活かしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、柔軟な対応が出来るように努めている。	既存のサービスに捉われず、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り近隣の商店を利用し、馴染みの関係を築けるように努めている。	出来る限り近隣の商店を利用し、馴染みの関係を築けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を尊重し、これまでと同じかかりつけ医にご家族対応にて受診している。ご面会・外出の機会も得られ気分転換にも繋がっている。ご家族が遠方の方など、受診対応が困難な方には、往診や職員が受診対応をおこなったり、緊急時はの救急対応は職員が行っている。	ご本人・ご家族の希望を尊重し、これまでと同じかかりつけ医にご家族対応にて受診している。ご面会・外出の機会も得られ気分転換にも繋がっている。ご家族が遠方の方など、受診対応が困難な方には、往診や職員が受診対応をおこなったり、緊急時はの救急対応は職員が行っている。	入居時にかかりつけ医の希望を本人家族から聴取、希望に沿った対応をしています。家族が遠方に居住している方や往診医を希望される方以外の方は、家族による通院で主治医受診をしていますが、状況により職員も通院支援しています。家族受診の際には、本人の身体状況をメモ書きして渡します。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師による健康チェックを受けている。日頃より、利用者様のご様子や体調の変化など、相談・報告をおこない、助言をいただいている。	週に一度訪問看護師による健康チェックを受けている。日頃より、利用者様のご様子や体調の変化など、相談・報告をおこない、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には必ずサマリーを用意している。安心して適切な医療が受けられるように、関係者との情報の共有を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスにも参加している。	入院の際には必ずサマリーを用意している。安心して適切な医療が受けられるように、関係者との情報の共有を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見を尊重し、終末期のあり方、方向性を随時話し合っている。在宅医療の協力体制を整えるように努めている。	ご本人・ご家族の意見を尊重し、終末期のあり方、方向性を随時話し合っている。在宅医療の協力体制を整えるように努めている。	入居時に、重度化指針により家族に説明し、家族の意向確認をしています。本人の状況が変化したときは、その都度家族と相談して希望を聴いています。医療的な行為が必要な場合は今のところ対応が難しい状況があり、医療的行為の必要がない方の看取り対応は可能だということです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様が万が一の事故に備え、定期的に学習会を行っている。	ご利用者様が万が一の事故に備え、定期的に学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害を想定し、年2回の避難訓練を実施している。昼夜それぞれを想定した訓練を1回ずつ行っている。	火災・地震・水害を想定し、年2回の避難訓練を実施している。昼夜それぞれを想定した訓練を1回ずつ行っている。	年2回昼はデイサービスと合同で避難訓練を行い、夜間は単独で実施しています。一時避難所は近くの中学校になっており、自治会には協力依頼をしています。災害時職員の連絡網で知らせ、対応する体制も整っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や、ベースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心掛けている。また、人格や尊重を傷つけないような声掛けや接し方、対応に努めている。	一人ひとりの人格や、ベースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心掛けている。また、人格や尊重を傷つけないような声掛けや接し方、対応に努めている。	排泄時やパット、パンツの取り換え時に小声で声掛けを行い、プライドを傷つけないよう配慮しています。年1回、尊厳とプライバシーに関する研修を行い、意識の向上を図っています。また、チェックシートを用いて自己評価する仕組みがあります。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを聴きながら、可能な限り自己決定出来るように働きかけ、支援している。意思表示が困難な方には、キーパーソンに意思を伺う等して、希望に沿った自己決定が出来るよう働きかけている。	ご本人の思いを聴きながら、可能な限り自己決定出来るように働きかけ、支援している。意思表示が困難な方には、キーパーソンに意思を伺う等して、希望に沿った自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の時間のスケジュールにするのではなく、個人のペースに合わせた時間の使い方を大切にしている。一人ひとりの希望に沿えるように支援している。	職員都合の時間のスケジュールにするのではなく、個人のペースに合わせた時間の使い方を大切にしている。一人ひとりの希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく、自由に、身だしなみやおしゃれが出来るよう、見守り・支援をしている。	その人らしく、自由に、身だしなみやおしゃれが出来るよう、見守り・支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、見た目を重視した盛り付けにするなど、工夫している。季節の果物を食べたり、おやつ作りを職員と一緒に進めている。また、できる利用者様には食事の準備や片付けをお願いし職員と一緒に進めている。	食事を楽しめるよう、見た目を重視した盛り付けにするなど、工夫している。季節の果物を食べたり、おやつ作りを職員と一緒に進めている。また、できる利用者様には食事の準備や片付けをお願いし職員と一緒に進めている。	みそ汁とご飯以外は業者からの取り寄せで、ホームでは温めと盛り付けを行い、食事をおいしく、楽しめるように彩りよく盛り付ける工夫をしています。対面キッチンなので臭いや彩りでおいしさを感じ取ることができます。また、利用者のできる力を見極めて、能力に応じておやつ作りに参加してもらったり、食事の準備や片付けをして頂いたりしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は高齢者の栄養バランスを考慮した内容となっている。1日の食事・水分摂取量が分かるように記録を付けている。嚥下状態の見極めを行い、トロミをつけている。	献立は高齢者の栄養バランスを考慮した内容となっている。1日の食事・水分摂取量が分かるように記録を付けている。嚥下状態の見極めを行い、トロミをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。状態や状況に応じて、協力医である歯科に相談し、受診もしくは往診をお願いしている。	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。状態や状況に応じて、協力医である歯科に相談し、受診もしくは往診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを掴むようにしている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように、支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを掴むようにしている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように、支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、できるだけトイレで排泄ができるように、一人ひとりの排泄パターンに応じた支援をしています。日中はリハビリパンツ、夜間はポータブルトイレの方もいますが、現在おむつをしている方はお一人だけということです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や整腸剤等の薬だけに頼るのではなく、繊維質の多い食品を摂ったり、水分量を増やしたりするように心掛けている。状態に応じて主治医に相談し、整腸剤・下剤の処方してもらっている。	下剤や整腸剤等の薬だけに頼るのではなく、繊維質の多い食品を摂ったり、水分量を増やしたりするように心掛けている。状態に応じて主治医に相談し、整腸剤・下剤の処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	フロア一内事故防止のため、職員の見守りの出来る時間帯に行っている。	フロア一内事故防止のため、職員の見守りの出来る時間帯に行っている。	職員が入浴介助している間に、フロアにいる利用者には事故があってはいけないので、職員がフロアで見守りが出来る時間帯14時～16時の間に、自由に入ってもらおうとしています。その日の体調で入浴できない人にはシャワー浴や足浴をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個人のペースに合わせている。夜間、不眠にならないように、日中の活動量をできるだけ増やすようにしている。	就寝時間は個人のペースに合わせている。夜間、不眠にならないように、日中の活動量をできるだけ増やすようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明をよく読み把握するようにしている。薬の効果や副作用を見極め、医療と情報の共有を行っている。	職員全員が薬の説明をよく読み把握するようにしている。薬の効果や副作用を見極め、医療と情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことは積極的に行っていたり、やりがいや喜びを感じていただけるように支援している。意思表示の困難な方には、思いに寄り添いながら支援するようにしている。	ご本人の得意なことは積極的に行っていたり、やりがいや喜びを感じていただけるように支援している。意思表示の困難な方には、思いに寄り添いながら支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気・気候を見ながら近所に散歩に出かけている。四季を感じてもらえるよう、なるべく季節ごとに外出を企画し、全員で外出する機会を作っている。ご家族の協力のもと、個々に外出をしている。	天気・気候を見ながら近所に散歩に出かけている。四季を感じてもらえるよう、なるべく季節ごとに外出を企画し、全員で外出する機会を作っている。ご家族の協力のもと、個々に外出をしている。	天気の良い日は近くの神社に散歩に出かけ道に咲いている草花を見ながら四季を楽しんでいます。春は桜の花見、夏はひまわりを見に、秋は紅葉がり、正月には初詣等家族の協力を得ながら外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に事務所で管理している。希望に応じて一緒に買い物に出かけ、好きな物を購入している。	金銭管理は基本的に事務所で管理している。希望に応じて一緒に買い物に出かけ、好きな物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など、希望があればいつでもやり取りが出来るように支援している。個々に管理できる方は、自身で携帯電話を所有し自由にご家族とやり取りしている。	電話や手紙など、希望があればいつでもやり取りが出来るように支援している。個々に管理できる方は、自身で携帯電話を所有し自由にご家族とやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感が出るような装飾をしている。部屋の室温・湿度には十分に気を付け、心地良く過ごせるよう配慮している。通路は広々とした雰囲気になるようにしている。	共有スペースには、季節感が出るような装飾をしている。部屋の室温・湿度には十分に気を付け、心地良く過ごせるよう配慮している。通路は広々とした雰囲気になるようにしている。	共用空間は明るく、一定の温度が保たれ清潔感があり、広々とした動きやすい空間で居心地よく過ごせる環境でした。フロアの壁には季節感のある利用者の作品が飾られていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは独りにはなれないが、自由に居室・共有スペースを行き来されたり、ソファでテレビを観たり、雑談したりとそれぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。	共有スペースでは独りにはなれないが、自由に居室・共有スペースを行き来されたり、ソファでテレビを観たり、雑談したりとそれぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。ご家族とも相談しながら、自宅にいたときと同じようにリラックス出来たり、心地良く過ごせるように支援している。	居室には使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。ご家族とも相談しながら、自宅にいたときと同じようにリラックス出来たり、心地良く過ごせるように支援している。	自宅で使っていたタンスや椅子、思い出の写真や飾り物、位牌や仏壇など、一人ひとりが思い思いの物を持ち込んで、その人らしい居室で生活できるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GHの玄関は安全を考慮して施錠されているが、共有スペース・居室は、バリアフリーになっており、安全かつ自由に行き来出来、それぞれが思い思いに過ごしている。	GHの玄関は安全を考慮して施錠されているが、共有スペース・居室は、バリアフリーになっており、安全かつ自由に行き来出来、それぞれが思い思いに過ごしている。		